矢作川樹木伐採に関する現地合同調査

平成 25 年 9 月 12 日

※発言者は所属略称で記載

【20.4K 左岸】

視察メンバー：樹木伐採で、どれくらい流下能力が向上するのか。

視察メンバー：水位低下の効果は、意外に小さいのではないかと思う。

事　務　局：整備計画策定時に樹木伐採および河床掘削による水位低下効果のシミュレーションを行っているが、現時点で詳細は不明である。今後、最新の横断データによる再確認が必要だと思っている。

野 鳥 の 会：鳥の観点からは、今回の区間について河道内樹木は全部伐採してもよいと思う。むしろ、川幅を活かしながら低水路を平坦にし、死水域やワンド等を作るなどした方が、水生昆虫等の生育が促され、より良い自然環境が得られると思う。

視察メンバー：低水路を広くすると、流速が遅くなり、砂が溜まり易くなる場合もあると思う。

視察メンバー：流路は浅い部分や深い部分など、変化があった方がよいのではないか。

視察メンバー：ヤナギ類は伐採しても、すぐに生えてくると思われる。

視察メンバー：近年は街中に大きな木がないことから、水辺にはある程度の木があって欲しい。

視察メンバー：樹木は堤防よりも高くない方がいいと思う。

野 鳥 の 会：鳥類の生息のためには、３～４m程度の樹高が望ましいと思われる。

視察メンバー：昭和３０～４０年頃は、河道内に樹木は無かった。

野 鳥 の 会：今まで河道内樹木を、あまり刈ってこなかったのではないか。里山の保全のように、河道内樹木の伐採を含めた、ある程度の適切な管理が必要だと思われる。

視察メンバー：今の時点での河道内樹木の自然な状態は高密度に繁茂した状態であり、間伐を行うと、それを維持するための管理が大変だと思われる。

視察メンバー：抜根は出来るのか。伐採のみでは駄目か。

事　務　局：実作業として全て抜根することは難しいと考えている。しかし、伐採のみだと、再度、切り株から芽が出て繁茂していく可能性がある。伐採のみの場合には、市や地域住民との協働による維持管理の実施に向けて、調整を行っている。

視察メンバー：伐採後の樹木管理については、地域住民との連携による維持管理が望ましい。その際、子どもたちにも自然に触れ合える機会を設けるとより良いと思う。

事　務　局：竹林については、流下阻害の影響が強いため、基本的に伐採・抜根を行っていきたい。

野　鳥　の　会：竹林にはウグイス等の生息場所となっているが、しょうがないであろう。

視察メンバー：エンジュ（ニセアカシア）については伐採していってほしい。

事　　務　　局：基本的に外来種であるエンジュは伐採していく方針である。オニグルミ等の在来種は保全していきたい。

事　　務　　局：（内田先生の意見書を紹介）

【車中】

野　鳥　の　会：木にクズ等が絡まりついている状態では、自然の多様性は殆ど無いと思われる。

視察メンバー：樹木伐採よりも河床掘削の方が優先ではないか。

【美矢井橋上流右岸】

事　　務　　局：CCTV の阻害となるため、橋直上流部分の樹木については水際まで伐採したいと考えている。また、水制工部分については、施設保護の観点から抜根は出来ないと考えている。

各　　位：（特に異存なし）

野　鳥　の　会：中州の樹木について、小さいうちに伐採していった方がよいのではないか。
また、ムクドリ等、樹木群に生息する鳥類にとっては、現在のような高密度に高く繁茂している状態は好ましくない。

【車中】

視察メンバー：水制工を保護するために、周辺部の樹木は残し置いた方がよいのでは。
水制工と樹木が一体となった、「ベジタブル水制」としてもよいと思う。
それ以外の区域は全伐採してもよいのではないか。その際、水制の前（流路側）については、ある程度残しておいた方がよいと思う。

野　鳥　の　会：高すぎる樹木については、鳥類の生育のため、また、外力が強く作用しないよう、３m程度に剪定してもよいのではないか。

視察メンバー：剪定する場合は、一定高さに揃えるよりも、ある程度のばらつきを持たせ、多様性を持たせた方がよいと思う。なお、剪定に弱い樹木もあるので、剪定の際には

樹木の専門家に確認した方がよい。

事　務　局：伐採は鳥の営巣時期は避けた方がよいと思うが、どの時期か。

野 鳥 の 会：おおよそ４～７月頃を避ければよいと思う。

【19.6K 右岸（車中）】

視察メンバー：この付近は流路の右岸に寄ってきており、堤防も薄いため、水制工を設けた方がよいのではないか。

【渡橋下流右岸】

事　務　局：この辺りは、樹木伐採の他、河床掘削も予定している。
なお、この区間のタケについては、基本的に伐採・抜根を予定している。ただし、一部、タケを利用している人もいるため、一部区域については残す予定である。

各　　位：（特に異存なし）

視察メンバー：流路前面の樹木も伐採してよいのではないか。

事　務　局：この周辺は水辺の楽校の区域ともなっている。岡崎市から存置の希望がなければ、水辺の楽校に配慮しつつ、可能な範囲については伐採していく方向で検討していきたい。

野 鳥 の 会：洲はコアジサシが繁殖に利用している。洲を河床掘削する場合は、代替の裸地を近傍に作ってほしい。

【日名橋上流右岸から上流へ】

事　務　局：樹木の適正管理の観点から、可能な範囲で伐採を基本としたいと考えている。ただし、導流堤の維持のため、抜根は行わない方向で考えている。

家下川を守る会：この区域には、タケやヤナギ類の他、ウメツルモドキ、アケビ、ボケ等が生育している。また、鳥類について、ウグイスやメジロなど多くの鳥がいる。

事　務　局：伐採区間は、当初、日名橋～岡崎大橋を予定したが、他の伐採区間の縮小の関係上、上流側へ延伸することも考えている。

また、作業時、堤防法尻の前面に、縦断的に作業通路を設置する必要がある。さらには、河道内の通行やアダプト活動の制限もお願いしたい。

各　　位：（異存なし）

視察メンバー：下流区間の樹木伐採は流下能力の向上が目的であったが、この区間の目的は。また、導流堤は残すのか。

事　務　局：この区間の樹木伐採は、河道内樹木の適正管理が目的である。導流堤については、整備計画上、当面は残す予定としている。

視察メンバー：維持管理の際の人員や樹木の処理はどのようにしているのか。

家下川を守る会：地元の学校や企業に協力してもらっている。樹木の処理については、一部はドンド焼きに利用しているが、その他は、地元農家等に持って帰ってもらい活用してもらっている。

事　務　局：日名橋上流側のタケ群生の中にあるヤナギの大木については残しておきたいと考えている。

家下川を守る会：できればタケは抜根まで行ってほしい。

事　務　局：導流堤部分について、基本的にはマダケは全伐採したい。ただし、導流堤の堤体や柵板等の保護のため、抜根は困難である。なおタケ以外の樹木について、大木や重要種等については、有識者に再度確認してもらった上で、必要なものは残していく方向で考えている。
なお、当初作業予定であった日名橋～岡崎大橋の区間を優先するが、予算上可能であれば岡崎大橋より上流側についても着手したいと考えている。

各　　位：（特に異存なし）

家下川を守る会：導流堤部分につて、作業時の車両進入は下流側からしか出来ない。

【岡崎大橋直下右岸】

事　務　局：導流堤部分の樹木伐採については、作業用仮設道路の設置後、天端と裏法（川裏側）のタケ類について先行して伐採する。その際、堤体保護の観点から抜根は行わない。表法（川表側）については、その後、再度、有識者と確認の上、表法の伐採の必要性を判断したい。

各　　位：（特に異存なし）

家下川を守る会：本堤法尻付近の３本の高木については、アケビが生育していたために存置している。現時点では１本にしかアケビが生育していない。
また、樹木伐採について、どちらかといえば岡崎大橋下流側よりも上流側の方を優先してほしい。

【車中：最終】

事　務　局：上流区間のまとめとしては、日名橋直上流の群落については、全伐採・抜根を基本とするが、シンボルとなるようなヤナギの大木等については、必要に応じて存置する。日名橋～岡崎大橋の区間の導流堤部分については、タケは全伐採・抜根なしを基本とする。主要な大木や重要種等については、再度、有識者に確認してもらい伐採可否を判断する。岡崎大橋上流の導流堤部分については、予算の状況により、可能な範囲で天端・裏法を先行して伐採する。

各　　位：異存なし

野鳥の会：鳥類に関しては、今日見た範囲では、特に樹木伐採による影響がないと思われる。

（以上）